

海を陸地にしてお寺を建てた仙芳仙人

多くの伝説や文化財が残る喜多院周辺。市では、喜多院周辺の魅力や歴史的な町並み、落ち着いた住環境を次世代へ継承することを目指して、川越市景観計画に基づく都市景観形成地域指定に向け、まち歩きやワークショップ等の取り組みを行っています。今回は、喜多院の伝説を紹介します。

今から7〜8千年前、東京湾は、喜多院のすぐ近くまで入り込んでいました。この地にお寺を建てようと仙芳仙人が訪れると、竜神であり、海の主である老人が現れました。仙芳仙人は老人に「私の衣を広げた分の土地を頂きたい」と頼み、衣を波の上に広げると、瞬間に数十里の大きさに広がりました。老人は驚き「これでは私の住む場所がない。小さな池を残してほしい」と頼むので、仙芳仙人は小さい池を残してあげました。そして土仏を作り、海に投げ入れると、たちまち海が退



龍池と弁財天



仙波の名の由来といわれている仙芳仙人入定塚

き陸地になったと伝えられています。仙芳仙人がそこに建てたお寺が喜多院につながり、竜神に与えた池が龍池といわれています。今は近くに弁財天が祀られています。この伝説にまつわる仙芳仙人入定塚は、喜多院齋堂の西側にあります。また、周辺にある小仙波貝塚は、この地がかつて海だったという証しで、市指定史跡となっています。



農政課 224-5939

ロメインレタス

「個性のある野菜を育てることに、とてもやりがいを感じま

「珍しい野菜なので、手に取ってもらう機会が少なく、よくおいしい食べ方を聞かれます。買いに



来たお客さんと話をするのが楽しいですね」と横山さん。こうした積み重ねから、今では遠方から来るリピーターもいます。

す」と話すのは、ロメインレタスを栽培している横山一栄さん(かし野台1丁目)。ロメインレタスは、内葉はみずみずしく、外葉はパリパリとした食感が特徴で、サラダやおひたしなどで楽しむことができます。おいしいロメインレタスを作るには、土作りがとても重要。プランターで種から育て、小まめに水分や水性肥料を与え、苗が大きくなると落ち葉などをすき込んだ畑に植え替えます。こうした努力をすることで、葉肉が厚くなり、全体的に締まりがある葉になるそうです。

横山さんのロメインレタスは、自宅の前で直売をしているほか、毎月第1土曜日にクレアパークで行われる公園朝市に出店しています。

この時期に市内の直売所などで購入できる主な川越産野菜

コマツナ、ホウレンソウ、ブロッコリー、ニンジン、サトイモ、ネギ、ダイコン、カブ、ゴボウ、ハクサイ、キャベツ

編集後記
どんぶり

小 江戸川越CMコンテス
ト最優秀賞の茅嶋さん

は、撮影のため、神奈川県から川越に20回ほど通ったそうです。受賞の感想を聞くと「びっくりしました。まだ実感が湧きませんがうれしいです」と興奮冷めやらぬ様子でした。

皆 さんは、「キタミソウ」という植物をご存じですか？

花が3mmほどと非常に小さい植物で、絶滅危惧種や埼玉県の県内希少野生植物種に指定されています。このキタミソウが、伊佐沼に自生しているのが見つかりました。希少植物が生息できる環境は非常に貴重です。今後もキタミソウが生息できる自然環境を温かく見守っていきましょう。



*キタミソウの自生について詳しくは、環境政策課 224-5866にお尋ねください。

広報川越1432

■発行日/平成31年2月10日(毎月10日・25日発行)
■発行/川越市 〒350-8601埼玉県川越市元町1丁目3-1 <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>
☎049-224-8811(代表) ☎049-225-2171
■編集/広報室

「声の広報川越(CD)」 「点字広報川越」を作成しています。ご希望の方は、広報室までご相談ください。
☎224-5495 ☎225-2171

私的利用の範囲を除き、記事や写真の無断転載を禁止します。

この印刷物は、グリーン購入法に適合する紙を使用し、印刷用の紙へ、リサイクルできます。 リサイクル適性(A)

Fontworks
UDFont